

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



奈良県広陵町
が応援するふるさと名物

広陵町の靴下技術が生み出す商品群



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

平成30年1月25日

地域の
プロフィール

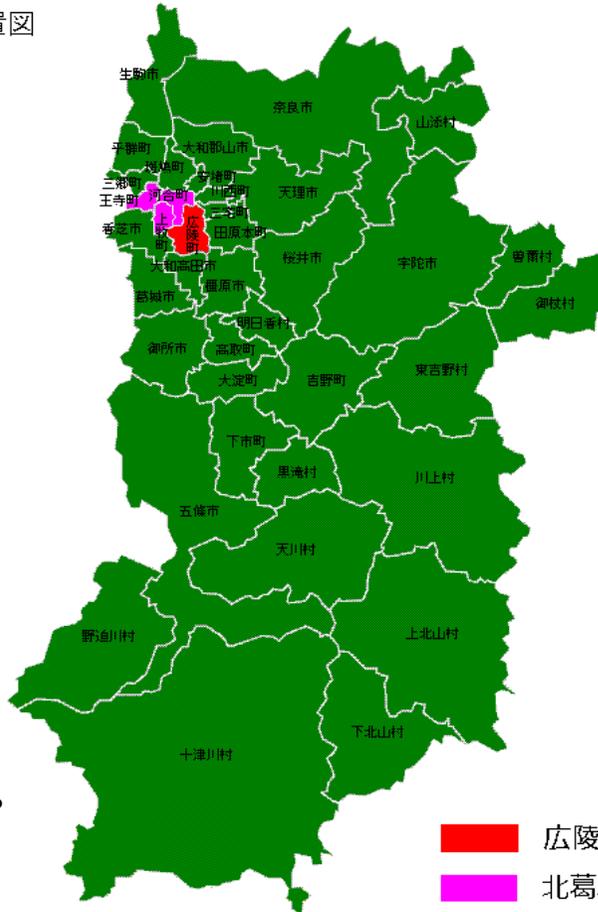
広陵町は、奈良県の北西部にあり、近畿圏の中核都市である大阪市へは、約30kmの直線距離にあります。

面積は16.30km²（南北5.5km/東西4.5km）、人口は約35,000人で奈良県内で一番人口が多い町です。

町は、箸尾駅を中心として発展してきた北部地域、地元の靴下産業が息づく西部地域、のどかな田園風景が広がる東部地域、閑静な住宅街が広がる真美ヶ丘地域と大きく4つに分けられます。

奈良県から見た広陵町の位置

●位置図



奈良県広陵町



築山古墳



讃岐神社

■ 広陵町
■ 北葛城郡

1

主な地域資源



1

広陵町の「靴下」

江戸時代の初めには農家の副業として、大和木綿を産出していました。しかし、明治になり、紡績・紡織は機械により大量生産され、メリヤス工業が盛んとなり、大和木綿や緋は廃れていました。

この地で靴下作りを始めたのは、馬見村（現広陵町）疋相の吉井泰治郎とされています。泰治郎は明治四十三年（1910年）、手回しの編み立て機を購入し、工場を作りました。木綿の機織りに代わる農家の副業として、靴下製造を開始しました。

戦後、ウーリーナイロン糸の登場により広陵町の靴下は飛躍的に発展し、現在では「靴下生産量日本一」の伝統ある産地に成長しました。



2



3



4

- 1 : 吉井泰治郎
大正3年2月14日写
- 2 : 奈良県の靴下製造創業期のころに使用されていた手回しの靴下編み機
- 3 : 昭和20年代後半から40年代は、主に九州地方から集団就職の若者を迎えた。工場働く女性従業員たち
- 4 : 現在の工場
約100台の機械を数人の職人が操作、管理する。

2

広陵町の靴下技術が生み出す商品群

ふるさと名物

◆はだし靴下

はだし靴下は、はだし教育など外での運動で使用できるようにと開発された靴下です。靴下のまま、砂場や草原を走っても破れにくく、はだし感覚を味わうことができます。素材には、防弾チョッキなどで使用される繊維を使用し、その耐久性は、普通の靴下の100倍以上です。

◆スポーツ靴下

ランナーや、スポーツを楽しむ人を、足元からサポートします。高いフィット性や、クッション性などの機能はもちろん、最新編機を駆使した今までにないデザインは「自分らしさ」を生み出します。機能性とファッショナブル性を兼ね備えた靴下でスポーツを始める方におすすめです。

◆ボトルクーラー

特殊な素材を靴下編機でつくったボトルクーラー。生地を缶から取り出し、たっぷりと水を含ませます。冷やした（常温でも可）白ワインのボトルに装着して缶のなかに入れます。すると気化熱により、中のワインは冷たさを保つことができます。ポップな柄でテーブルがはなやかになります。



広陵町の靴下技術が生み出す商品群

◆オーガニックコットンの靴下

オーガニックコットンが好まれる理由は、環境のため、働く人の健康のためと、さまざまです。そして、はき心地の良さにもしっかりと理由があります。通常の効率優先の綿栽培では、綿花を収穫する際、葉を早く落とすため、枯れ葉剤などの化学薬品が大量に使われています。オーガニックコットンの収穫は、綿花が完熟し、自然に葉がおちるまで待ちます。そうして収穫される成熟した綿花は、空気をたくさん含んでおり、柔らかく吸湿性や保温性にも富んでいます。オーガニックを選ぶ最大の理由は、やはり、はき心地です。繊維の強さも魅力のひとつで、長く使えば使うほど、その良さを体感できます。

◆シースルー靴下

靴下全体をシースルーにしています。つま先が透けているのでネイルアートを見せられる靴下です。

釣糸の様な特殊なフィラメント糸を使用し、透明感とシャリ感と清涼感を実現したソックスです。口ゴム、カカト、つま先には肌にやさしいコットンシルクを使用しています。また冬用としてカシミヤ混やアンゴラ混のウール使用のシースルーもあります。パンストの上に履くと想像以上に暖かくなります。



オーガニック
コットンの靴下



シースルー靴下



シースルー靴下（冬用）

広陵町の取り組み

◆ブランド戦略

奈良県中小企業家同友会、広陵町商工会、広陵町靴下組合、大学及び金融機関との連携による「広陵町の地域活性化をめざす中小企業等検討会」を発足し、地方創生推進交付金事業「活力あふれるまちづくり」ブランド戦略展開事業により、産官学金が連携して、地域ブランドの確立を図り、地域産業全体の底上げを目指します。

また、同検討会では、「広陵町」＝「靴下」を印象づけるポスターやロゴマークを作成するなど、積極的なPR活動を展開しています。



ポスター



ロゴマーク

靴下組合のPR活動

広陵町は、1910年から靴下産業が始まり100年以上の歴史を誇っています。そんな広陵町靴下組合では、様々なPR活動を行っています。

◆靴下の市

広陵町の靴下の良さを知ってもらうべく、生産者自らが消費者に直接、しかもお得に販売するために毎年、4月と11月に開催しています。毎回多くの人々で賑わい、活気あふれるイベントです。

◆靴下デザインコンテスト

全国から靴下のデザインを一般公募し、入賞者のデザインは現物の靴下に編み上げ、町主催のイベントである「広陵かぐや姫まつり」の特設ステージで地元大学生がモデルとなって、ファッションショーを行っています。



靴下の市



靴下デザインコンテスト受賞作品



ファッションショー

靴下組合のPR活動

◆靴下リサイクル事業

靴下製造で出るリング状のハギレ。

町内で大量に出るハギレを焼却せず、素材と色で分類し、指編み材料として再利用することで、環境と社会福祉に役立てています。

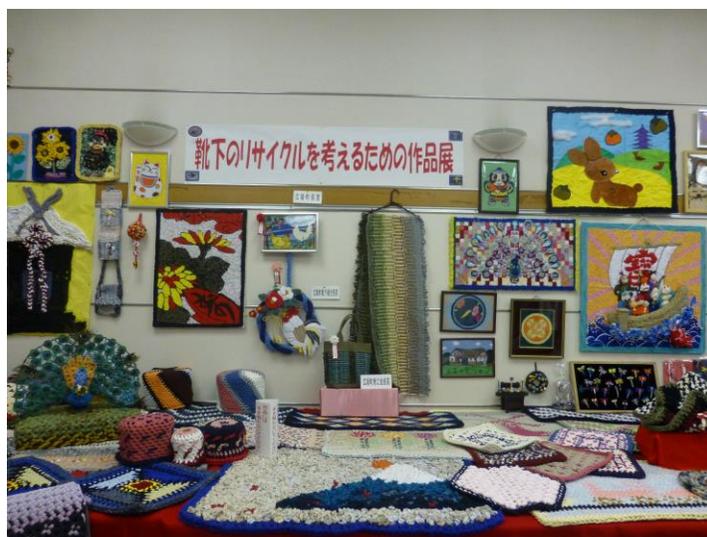
◆広陵町の靴下百年史

奈良県広陵町の靴下組合がつくった「広陵町の靴下百年史」。

靴下の生産量日本一のまちである広陵町が歩んできた100年に渡るものづくりの歴史が詰まった本です。世界の靴下の歴史から日本の靴下の歴史、広陵町において靴下産業がどのような発展を遂げ、今後どのような課題があるのかがわかりやすく書かれています。



靴下のハギレ



靴下リサイクルを考えるための作品展受賞作品



広陵町の靴下百年史

広陵町長からのメッセージ

足もとにMade in Japan のしあわせを。

広陵町は奈良県の北西部に位置した面積16.30km²、人口35,000人の奈良県一人口の多い、国産靴下生産量日本一の「靴下の町」です。

靴下産業は明治時代から農家の副業として始まり、戦後にウーリーナイロン糸の登場により飛躍的な発展を遂げてきました。

広陵町は靴下製造に関わる全工程がワンストップで行える唯一の町でありましたが、最近では海外産の安価な靴下の流通により、年々靴下事業者が減少傾向にあり靴下産業を取り巻く環境は大きく変化しています。

しかし、ファッション性、機能性、実用性を取り込み、各社が自社ブランドを立ち上げるとともに、確かな技術力と品質により、現在も多くのメーカーやブランドを通じて広陵町の靴下は世の中へ送り出されています。この伝統と100年受け継がれた技術で作上げられた靴下を国内に発信し、「足もとにMade in Japan のしあわせを。」をキャッチフレーズに広陵町の靴下を「ふるさと名物」として応援することを宣言します。



広陵町長 山村 吉由